



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和3年10月18日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

修学旅行終わる！(大分・福岡方面)10/14・15

10月14日(木)・15日(金)の2日間、3年生は修学旅行に行ってきました。この2日間だけが、朝から雲一つない快晴で(どちらかと言えば季節外れの暑さで)絶好の修学旅行日和でした。

【10月14日(木)】学校～城島高原パーク～学校

1日目は城島高原パークです。すでに行ったこともある人もいたでしょうが、友だちと行くアミューズメントパークもまた格別です。午前中はいくつかのアトラクションが点検作業のために止まっていますが、3年生のみなさんは楽しむことができましたか?昼食はカレーバイキング。しっかり食べた後、元気に解散していきました。集合時間も守ることができ、順調な滑り出しだったと思います。1日目は挨拶のことなどを注意されましたが、その他のことはきちんとできた3年生だったと思います。

【10月15日(金)】学校～マリンワールド海の中道～ヒルトンシーホーク～大宰府～学校

2日目の最初の訪問地はマリンワールド海の中道です。ここでも最初にお土産を買う人が多かったようですね。館内を見学した後は、イルカ(クジラ)・アシカショーを見学しました。最前列で、水に濡れるのを楽しんでいたグループもありました(笑)。楽しい時間が過ごせたのではないのでしょうか。マリンワールド海の中道を後にして、バスはヒルトンシーホークへと向かいました。昼食はレストランシエラでのバイキングです。ここで、校長先生の隣に座っていた方と話す機会がありました。その方は八幡東区の中央中学校の出身でした。3年生のみなさんの姿を見て、「こんな素晴らしい学校があるんですね」とお褒めの言葉をいただきました。みなさんの日ごろの頑張りが出た瞬間でした。お腹いっぱい食べた後は太宰府天満宮です。合格祈願をしましたか?ここでもお土産をたくさん買うことができました。たくさんの思い出を胸にバスは学校へと戻りました。

ほとんどの場面が『すべてよし』の素晴らしい修学旅行だったと思います。何でもすべて自由に行けるのが修学旅行ではありません。集団で行動するからこそ日常生活以上に厳しいルールが必要になってきます。その中でいかに楽しむか、修学旅行が終わって、大切なことがいくつか分かったと思います。楽しかった思い出は大切にしながら、日常生活のリズムを早く取り戻しましょう。いつも言われていることですが、進路決定の3年生にとってやはり学校生活が一番大切です。授業、宿題や提出物、服装など気を抜かずに取り組みましょう。また、体育大会や文化発表会へ向けても全力投球です。頑張り、尾倉中3年生!

保護者の皆様へ

2日間の修学旅行は大きな病気・けがもなく無事に終わることができました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に基づきながらの行動でしたので、生徒にとってはやや不自由な面もあったと思います。特に、行動に関しましては、点呼・集合時間を完璧に守れるなど、素晴らしいものでした。上にも書いていますが、今後のお子さまの生活に期待できるものでした。今後はこの修学旅行で得た『力』を学校行事、進路決定の中で発揮してほしいと思います。

教育課程に位置付けられている修学旅行が、学習指導要領に則って実施されることはいうまでもありません。新学習指導要領は、全ての教育活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践することを定めています。そして特別活動では、特に「体験的な活動」を通しての実践が重視されています。こうしたことを踏まえれば、生徒が事前に計画を立て、現地でそれに基づいて行動し、事後にそれを振り返るというプロセスの行動はまさに「主体的」な学びです。また、旅行先の人々との交流は「対話的」な学びそのもので、生徒が自らの価値観を捉え直す好機となります。さらに、東日本大震災以来、修学旅行で地震や津波の被災地を訪れ「災害・防災学習」を行う学校も出てきました。修学旅行は、事前・事後の活動を含めれば学校において最も時間と費用のかかる教育活動です。したがって、それに値する学びの効果が求められますし、実際、生徒に与える影響は大きいと思われます。それぞれの学校が、学校の教育目標や生徒の実態に応じた修学旅行を実施するようになれば、必然的に旅行先は多方面となり、内容も多様になっていくと考えます。

「学びの旅」としての修学旅行の意義を尾倉中としても再確認していきたいと思います。

